



こ HP  
ち は  
ら か  
ら ←

## お話したい壱岐商業高校の歴史（校訓碑編）

校長 戎野和幸

さて、今回は、正面門扉横にある校訓碑について紐解きたいと思います。正面門扉を入ると左手の駐車場に3本の石碑が立っています。この石碑は、創立50周年記念碑として、1999年に設置されました。設計とデザインを手がけたのは、当時のPTA副会長の山口宏司氏です。扇型に並んだ3本の柱は、向かって左から、2年生（勇氣）、1年生（信義）、3年生（知性）を表しています。このように配置したのは、勇氣と知性に溢れる上級生が、信義を胸に入学してきた1年生を温かく守り支えていくべきことを示しています。

3本の石碑のうち、中央の石（1年生）だけが「研磨加工」されていることをご存じですか？これには、これまでの教育により磨かれてきた1年生が、年を経ても初心を忘れないで欲しいということ。また、絶えず、自分本来の理想を求めながら、個性豊かに伸びて欲しいという願いが込められているそうです。両翼の石が天に向かってるように、それぞれの学年で、勉学や部活動、学校行事で多くのことを体験させ、将来、壱岐を元気にする人材を育成したいと思います。今後とも学校運営へのご理解とご協力をお願いいたします。

文責：校長 戎野和幸

[学校名]  
長崎県立壱岐商業高等学校

〒811-5533  
長崎県壱岐市勝本町新城西触  
282

TEL: (0920) 42-0033

## 株式会社IKISHO始動:12月設立 & 株主総会開催！

12月に、全国で7番目となる高校生株式会社を設立することになりました。出資は三菱みらい育成財団からの教育活動費となります。株主総会を経て、発起人戎野校長から株式譲渡を受け、全校生徒全員が株主となります。

来年度は3、年生全員が商業科目「ビジネス・マネジメント」において運営に携わります。現在、3年課題研究「起業体験プロジェクト」チームが第1回株主総会の準備を行っています。本社の目的は、「日本一の島の専門高校」を目指して、壱岐市や地元企業・NPO団体等と連携し、地域社会と協同して教育活動に取り組み、株式会社IKISHOが持続的かつ実践的な活動を行うことで、壱岐全体がより活性化する仕組みを作ることです。今後の活動にぜひご期待ください！

令和5年度壱岐地区  
公立高等学校  
PTA研修会  
inかざはや

## 野球部 県高野連より「21世紀枠」推薦校表彰！

11/13（月）、今秋の九州地区高等学校長崎県大会ベスト8という結果を受けて、長崎県高校野球連盟より「21世紀枠」の推薦校として表彰していただきました。対馬、上対馬ともに、各学校少人数の部員ながら、あきらめなかった結果がこのような形となり、評価していただいたと思います。本校野球部は現3年生の代から「学校や保護者・地域と共に感動を分かち合う」をスローガンに掲げ、取り組んできました。ただ勝利するだけではなく、自分たちがひたむきに野球に取り組む姿で、見てくれる人の心が動くような野球を目指しています。勝ち上がる度に地域の方々からたくさん声をかけていただき、改めてこの島に支えられて、私たちの活動があることを実感しています。12/8に九州地区代表が決定し、1/26には九州地区を含む全国9地区の「21世紀枠」として甲子園に出場する2校が決まります。今はその選出を信じて、選手たちも懸命に努力を続け、3年生もサポートしてくれています。これからも野球部をよろしく願います。



野球部監督 宮原 明寛

## 第10回フードグランプリ出場 & 商業合同販売実習

11/11(土)、3年課題研究「起業体験プロジェクト」講座より4名が第10回商業高校フードグランプリ（千葉県千葉市）に出場してきました。「イカゆずBeans」は、3年課題研究「起業体験プロジェクト」の10名の生徒が地元壱岐を活性化させたいという思いから商品開発を行いました。販売の大変さを知ることができた生徒たちは、一回り大きく成長して帰ってきました！



11/18(土)には、「起業体験プロジェクト」と「観光研究」の8名が、9校の商業学科系列の高校合同の販売実習（佐世保四力町アーケード）に参加してきました。島外での実習ということで、休みも惜しんで販売・接客を行いました。フードグランプリでのディスプレイも生かされました。多くの人と交流ができ、大変良い経験がすることができました。 商業科 徳永 宏輔 田口 真鷹



11/18（土）に、令和5年度壱岐地区公立高等学校PTA研修会を実施しました。「子どもに伝えたいSNSのリスクと“考える力”を育むために～闇バイトの実態から学ぶ親と子供の関わり方～」を主題として、長崎県警本部生活安全部サイバー犯罪対策課調査官 佐藤修一様を講師としてお招きし、「闇バイトの実態から学ぶ」を演題にご講演をいただきました。

近年報道で取りざたされている闇バイトは決して他人事ではなく、いつ壱岐島内の高校生が巻き込まれるが分からないということ、そして、スマートフォンから実に簡単にアクセスできるという危険性を改めて認識すると同時に、子どもに携わる我々大人が現代の犯罪の在り方を知ることで子ども達を守る手立ての一助になるということを改めて気づかされました。当日は壱岐高校、壱岐商業の保護者並びに教職員で総勢50名を超える参加がありました。PTA役員の皆様をはじめ、出席いただいた保護者の皆様、ご多用の中本当にありがとうございました。

教務主任 岩永 浩輔

# 大盛況！ブックフェア2023

11/22(水)昼休みに、毎年恒例のブックフェアを開催しました。同日に校内読書会も実施され、本を求めて多くの生徒が集まり、会議室は大盛況でした。来場人数は149人、書籍331冊中持ち帰り冊数196冊でした。例年より書籍を持ち帰る生徒が多く、活字離れが心配されている昨今ですが、今後も読書を習慣づけしてほしいと思っています。 教務部 目良 恵子

## 体育祭を終えて

4年前の体育祭まで、ブロック対抗の仮装とダンスをおり交ぜた巻岐SHOWTIMEは、3年生のみで行う演技でした。その後、1年生から3年生まで全体参加型の演技になり、3学年が下級生に【教える】という形が生まれました。1年生の時ははしゃいでノリと勢いで取り組んだ体育祭ですが、3年生になると最高学年として、リーダーとして集団をまとめる立場になりました。性格もこだわりも違う多様な集団ですが、今年の3年生は下級生に映える場面や役割をきちんとたせ、みんなで楽しんで、頑張っ、必死になってやるんだという意気込みを強く感じました。勝負事には勝ち負けがつきものですが、体育祭終了後の、満足な生徒たちの顔を見ていると、全員勝者であり、解団式で【ありがとう】の感謝の言葉を素直に発する生徒に感動を貰った体育祭でした。 体育科主任 川瀬 康裕

## 文化祭を終えて

10/29(日)、30(月)に巻岐商業高校第34回文化祭が行われました。今年度は初の2日間開催、そしてコロナによる制限が大きく軽減された状態での開催で、保護者や地域の方を始め、卒業生や中学生など多くの方に来場して頂きました。生徒たちも自分たちの活動の成果を多くの方に見ていただけて、非常にやり甲斐を感じ、充実した文化祭になったようです。4年ぶりに復活したPTAのうどんも大盛況で、あっという間に完売したとのことで、嬉しく思った反面食べることができなくて残念でした。来年はリベンジしたいと思います！お忙しい中、生徒たちのために朝早くから準備等して下さったPTA役員をはじめ、保護者の皆様には感謝申し上げます。本当にありがとうございました。 生徒会主任 湯江 優紀



## 第2回授業研究会開催しました！

11/17(金) 宮原教諭(家庭科)による研究授業を行いました。今回は本校のみにとどめず、巻岐高校、市内中学校にも参観を呼びかけて実施いたしました。宮原教諭の非常にテンポの良い授業で、個→協働→個のリズムもできあがっており、生徒が学んでいない時間は見事に最小化されていたように感じられました。

本年度の取り組みとして、一人残らず子どもの学びの権利を実現するのみでなく、一人残らず教師の専門家としての成長を保障することを目的に、学期に1度の授業研究会と年間に数度の職員研修を行っております。したがって、授業研究についても従来の授業者の指導技術の巧拙を見るものではなく、授業者や生徒間のどの発言、どのような接し方が学び方を変えていったのかを見取り、その授業から見学者自身がどのように学びを得たのかを共有する会としております。今回は第2回ともあって、生徒の学び方の変容を生徒の名前を実際に挙げながら具体的に見取ろうとする様子が第1回のときよりも感じられました。

主体的・対話的で深い学びの真の実現のために本校が乗り越えないといけない壁はまだあるかと思えます。しかし、このような取り組みを通して少しずつでも学び本来の楽しさを取り戻させていきたいと願っております。 教務部副主任 片山 司朗

## ウルトラマラソン(100km)を完走して

10/21(土)の朝3:00に起床し、いつもより早い朝食といつもより入念なストレッチをして4:00頃スタート地点となる巻岐の島文化ホールに到着しました。仲間4人合流し、ペース配分に気をつけながら走ろうと5:00にスタートを切りました。

朝も早く選手もハンドライトを持って走るほど暗い中、街頭から多くの声援がありとてもありがたい気持ちになりました。途中のエイドステーションでは地域の方々の暖かい励ましのお言葉や美味しい食材を頂きました。11:00前に50km地点巻岐商業の生徒たちがボランティアスタッフとして待つ巻岐島開発総合センターではとても元気を分けてもらえました。40分程度休憩をし、直前の坂で大きくダメージを受けた下半身も少し回復し再スタート。

仲間4人で励まし合いながら後半を迎えましたが、60km地点ほどから1人、また1人と自分のペースで走ることにしていました。途中、中学生たちが給水所等で名前を呼んでくれながら応援してくれたことで一時的にでも疲れが癒された気がしました。70km地点にもなると足の指先の痛みがひどくなり歩いても走っても激痛を伴うこととなり、腹をくって走り続けることにしました。80km地点の筒城浜ふれあい広場では陸上部の生徒たちが再度応援をしてくれ、その頃には一人で走っていて心身ともに疲れ切っていた私に再度火をつけてくれました。地獄の久喜からの山道をようやく抜けたころ、部活動が終わったのか陸上部のある2学年の生徒が車から身を乗り出してまで応援をしてくれました。こんなに心を震えさせられたことはありません。

13時間16分40秒で何とか完走できましたが、一緒に走ってくれたチームバンヤンのみんな、企画から運営まで携わったスタッフの皆様、朝早くから日も沈んで暗くなるまで応援をされたり、私設エイドをつくらりまでして選手を応援してくれた地域の皆様、給水所ごとに明るい声で元気を分けてくれた中学生の皆さん、そして何より元気のもとになってくれた巻岐商業高校の生徒の皆さん方のおかげだと思っています。心より感謝申し上げます。現在ちょうど2週間ほどたち、下半身の痛みもようやく引いてきたところなので次の新春マラソンに向けての練習を始めていきたいと思っています。



数学科 片山 司朗